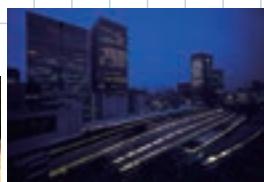




株主通信 第66期 報告書



2012年 1月 1日
↓
2012年12月31日

CONTENTS

ごあいさつ	2
セグメント別事業の概況	3-4
TAMRON NOW	5-6
デジタル一眼レフカメラ用 交換レンズ ができるまで	
トピックス	7-8
連結財務ハイライト	9-10
連結財務諸表	11-12
フォトコンテスト開催報告	13
会社情報	14



■ ごあいさつ



代表取締役社長
小野 守男

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

当社第66期(2012年1月1日～2012年12月31日)の営業概況についてご報告申し上げます。

当期における世界経済を概観しますと、米国経済は、家計部門では緩やかな回復傾向を維持しましたが、「財政の崖」をめぐる協議の難航が、景気の先行きに不透明感を残す結果となりました。欧州経済は、財政緊縮の影響が大きい南欧諸国の景気悪化がドイツ経済に波及する悪循環となり、中国経済は、欧州債務危機の煽りを受け輸出の不振が続くなど成長が鈍化しましたが、景気底入れの兆しもみえてきました。

一方わが国経済は、年度後半にかけて世界経済減速等を背景に輸出や生産が大幅に低下しましたが、年度末になっての円安進行等により、先行きに幾分明るさがみられるようになりました。

当社グループ関連市場であるデジタルカメラ市場においては、数量ベースでレンズ一体型タイプは前期に比べ約2割減となりましたが、レンズ交換式タイプは前期に比べ約3割増となり、交換レンズ市場でも前期に比べ約2割増となりました。

このような状況の下、当社グループの当連結会計年度における経営成績は、自社ブランド・OEMとも過去最高の売上高となった主力の写真関連事業が牽引し、売上高は643億53百万円(前期比10.0%増)となりました。

利益面につきましては、前期に比べて8円以上も円高と

なったユーロ/円相場の影響や新機種の投入遅れ等により、営業利益55億3百万円(前期比3.2%減)、経常利益53億77百万円(前期比5.7%減)、当期純利益38億94百万円(前期比2.3%増)となりました。

■ 次期の見通しについて

次期の見通しにつきましては、米国の『財政の崖』問題が一応の解決をみたことや、最近の円安進行等により、内外経済は緩やかな回復軌道を辿るものと予想されます。こうしたなかで当社グループ関連市場であるデジタルカメラ市場におきましては、レンズ一体型タイプはスマートフォンに押され縮小が予想される一方、レンズ交換式タイプは引き続き拡大基調で推移するものと予想されます。

これらの状況を踏まえ、次期の連結業績につきましては、売上高730億円(前期比13.4%増)、営業利益63億円(前期比14.5%増)、経常利益61億円(前期比13.4%増)、当期純利益40億円(前期比2.7%増)を見込んでおります。

※本見通しは、為替レート1米ドル=85円、1ユーロ=115円を前提としております。

■ 配当金について

配当金につきましては、1株当たり普通配当30円とさせていただきます。これにより、当期の1株当たり年間配当金は前期と同額の50円(中間配当金20円)となり、配当性向(連結)は35.2%となりました。

また、次期の配当につきましては、現時点では1株当たり50円の年間配当を予定しております。

株主の皆様におかれましては、これからも引き続きご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

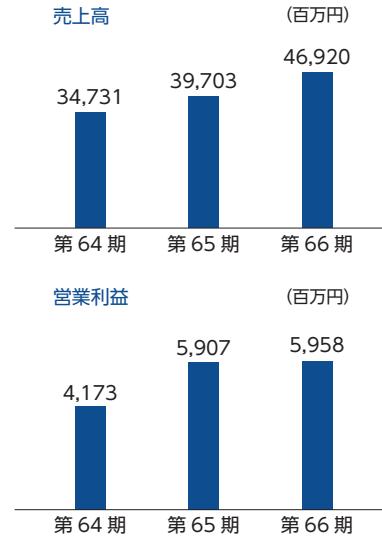
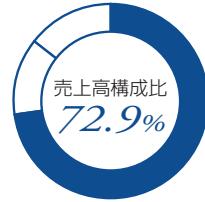
2013年3月



写真関連事業

写真関連事業は、4月に35mm判フルサイズ対応の大口径標準ズームでは世界初となる手ブレ補正機構を搭載したSP24-70mmF/2.8VC USD(A007)を発売し、11月には高画質とクラス最小のレンズボディを実現した大口径望遠ズームSP70-200mmF/2.8 VC USD(A009)と90mm等倍マクロレンズの次世代機種として、SP90mmF/2.8 MACRO 1:1 VC USD(F004)の2機種を発売いたしました。なお、A007は当社レンズとしては7年連続となる『EISAアワード』の受賞を果たしたほか、『デジタルカメラグランプリ2013総合金賞(交換レンズ)』を受賞しました。上記製品の他、高倍率ズームや望遠ズームを中心に販売数量を伸ばしました。

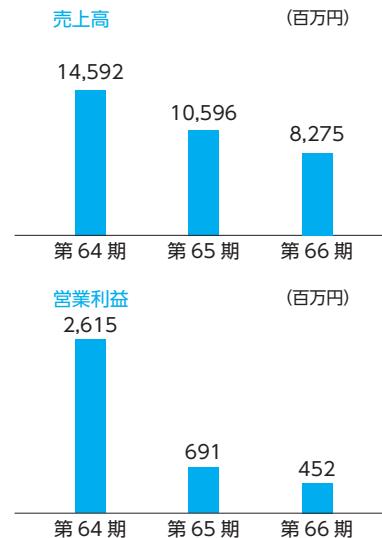
このような結果、写真関連事業の売上高は469億20百万円(前期比18.2%増)となり、営業利益は59億58百万円(前期比0.9%増)となりました。



レンズ関連事業

レンズ関連事業は、スマートフォンに押されてコンパクトタイプのデジタルカメラ需要が落ち込んでいることやデジタルビデオカメラ市場の縮小に伴い、当社の業績も前期比大幅な減収減益を余儀なくされました。

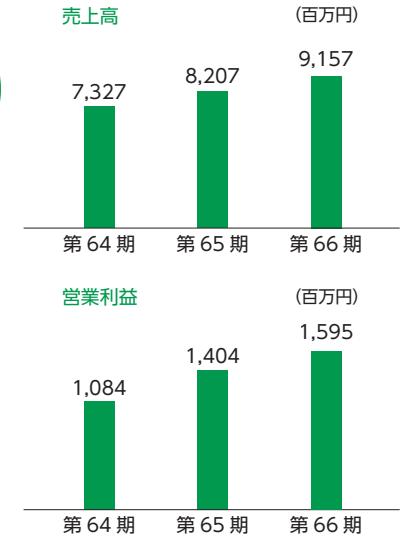
このような結果、レンズ関連事業の売上高は82億75百万円(前期比21.9%減)、営業利益は4億52百万円(前期比34.5%減)となりました。



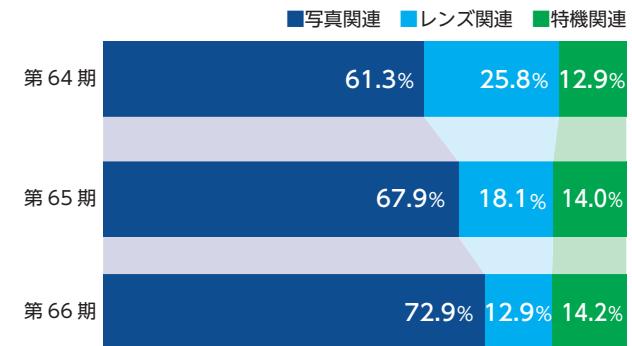
特機関連事業

特機関連事業は監視カメラの高画質化ニーズが高まるなか、一体型監視カメラ市場の拡大によりビルトインレンズ(一体型カメラ用レンズ)の販売が引き続き好調に推移し、順調に業績を伸ばしました。

このような結果、特機関連事業の売上高は91億57百万円(前期比11.6%増)、営業利益は15億95百万円(前期比13.6%増)となりました。



連結売上高構成比率の推移



	第64期	第65期	第66期
写真関連	61.3%	67.9%	72.9%
レンズ関連	25.8%	18.1%	12.9%
特機関連	12.9%	14.0%	14.2%

TAMRON *Now*

Vol.4

デジタル一眼レフカメラ用 交換レンズができるまで

レンズ専門メーカーとして創業63年目を迎えたタムロン。
株主の皆様へ「ものづくり企業」として理解を深めて頂く一環として
交換レンズの製造工程を数回に渡って紹介します。
第1回目は交換レンズの中に10枚以上も入っているレンズ玉、
その加工工程を中国の広州・仏山市にあるタムロン仏山工場から紹介します。



タムロン仏山工場

1 粗ずり

あら
粗ずり



ガラス素材の表面を磨き、おおよその曲率や厚みを整える工程。

START

ガラス溶解・プレスが済んだ硝子を購入

2 精研削

せいけんさく
精研削



粗ずりされたレンズの球面精度を出す為に、より細かくレンズ表面を磨く工程。ダイヤモンドの砥粒が埋め込まれた皿の上で行われます。摩擦熱が発生するので冷却液で冷却しながら行います。

3 研磨

けんま
研磨



レンズの外観上及び性能(主にレンズ曲率)の最終仕上げを行う工程。「研磨皿」の上にレンズを置き、「研磨剤」と呼ばれる専用の液体で磨き上げていきます。

特に重要な工程です。
大変厳密な精度が求められますので、
研磨皿の消耗チェックなど、
管理には細心の注意を払います。

ここがポイント



仏山工場総責任者 張 勝海

8 コート



レンズの透過率を向上させる為に、レンズ表面に薄い膜を蒸着させる工程。

9 接合(一部レンズのみ)・出荷検査



屈折率の異なるレンズ同士を光学用接着剤で貼り合わせ光学性能を向上させる工程。その後、最終検査を経て組立工程へ送られます。

* 専門用語をなるべく使わず、分かりやすく簡略化して説明しております。
実際の工程には下記で紹介されていない工程も含まれております。

7 複合(一部レンズのみ)



非球面レンズを作る際に発生する工程。ガラスレンズに樹脂を付けて非球面形状に加工し、UV照射で硬化させます。非球面レンズとはレンズ表面を球面でない形状にしたレンズの事で、光の歪曲や収差等を抑える事に有効な技術です。

6 芯取り・洗浄



レンズの中心を通る線である「光軸」をしっかり出す為に外周を削り決められた形状に仕上げる工程。その後、再び洗浄して表面を綺麗にします。

4 洗浄



レンズ表面のゴミ、ホコリ、汚れを純水や洗浄薬品で洗い落とす工程。

5 工程検査



これまでの製造工程を経たレンズの外観や精度をチェックする工程。



レンズ
組立ラインへ

手ブレ補正機構と超音波モーター搭載のクラス最小大口径望遠ズーム

『SP 70-200mm F/2.8 Di VC USD (Model A009)』を新発売

タムロンは、手ブレ補正機構「VC」と超音波モーター「USD」を搭載し、高画質とクラス最小を実現する35mm判フルサイズ対応の大口径望遠ズーム『SP 70-200mm F/2.8 VC USD (Model A009)』を発売いたしました。特殊硝材レンズ、異常低分散レンズを採用して色収差を徹底補正。先進の光学設計によって、ズーム全域での高いコントラストと優れた解像性能を發揮。加えて、歪曲収差などの諸収差を良好に低減することで、高級レンズにふさわしい高画質を実現しています。さらに、高精度なマルチコーティング技術を駆使することによって、フレアー、ゴーストを抑制した優れた逆光耐性を獲得しています。手ブレ補正機構と超音波モーターを搭載した35mm判フルサイズ対応の大口径望遠ズームではクラス最小を実現。様々な撮影領域で機動力を發揮します。また、レンズ内部に水滴が浸入しにくい簡易防滴構造を採用し、過酷な環境下での撮影にも配慮した設計としています。



NEW

2つの機能を搭載 手ブレ補正機構 「VC (Vibration Compensation)」

最大4段分の手ブレを補正。張りつくようなファインダー像と評され、低照度下でも、手ブレが軽減されるため、手持ち撮影を快適に行えます。

超音波モーター 「USD (Ultrasonic Silent Drive)」

静粛性に優れたAF稼働で素早いピント合わせが必要な動きの速い被写体の撮影に対応できると同時に、精度の高いピント合わせを実現しています。

タムロンの銘玉、90mm マクロレンズに、手ブレ補正機構と超音波モーターを搭載

『SP 90mm F/2.8 Di MACRO 1:1 VC USD (Model F004)』を新発売

タムロンは、35mm判フルサイズ対応の90mm等倍マクロレンズの次世代機種として、まったく新しい光学系に刷新し、手ブレ補正機構「VC」と超音波モーター「USD」を搭載した『SP 90mm F/2.8 MACRO 1:1 VC USD (Model F004)』を発売いたしました。

このレンズは銘玉として長年にわたり高い評価を得てきたタムロン伝統の90mmマクロレンズをデジタル時代に相応しい製品として全面的にリニューアルしたものです。特殊硝材レンズ、異常低

分散レンズを採用した先進の光学設計により、解像性能が高いシャープな画質を誇ります。また、円形絞りの採用により、タムロン90mmマクロレンズの伝統を引き継ぐ良質の「ボケ味」を実現しました。さらに、超音波モーターの採用で、素早いAF駆動とフルタイムマニュアルフォーカスを実現。インターナル・フォーカス方式の採用により、ピント合わせによるレンズの繰り出しを無くすことで近接撮影時に被写体との距離を長く保ち、撮影しやすくするなど、マクロ撮影時に求められるあらゆる機能を高めています。



NEW

2012

受賞 写真関連



7年連続EISAアワード受賞／SP 24-70mm F/2.8 VC USD (Model A007) が「ヨーロッパ・レンズ 2012-2013」を獲得

July
7月

量産開始 特機関連

セキュリティ用途向け遠赤外線カメラ用高機能レンズ単焦点4機種、ズームレンズ2機種全機種本格量産開始発表

August
8月



September
9月

新発売 写真関連

『SP 90mm F/2.8 MACRO 1:1 VC USD (Model F004)』キヤノン用発売



October
10月

新発売 写真関連

『SP 70-200mm F/2.8 VC USD (Model A009)』キヤノン用発売



November
11月

新発売 特機関連

2メガピクセル/Full HD対応 一体型カメラ用コンパクトズームレンズ1/3型 9-22mm F/1.6 (Model DF020) 発売



December
12月

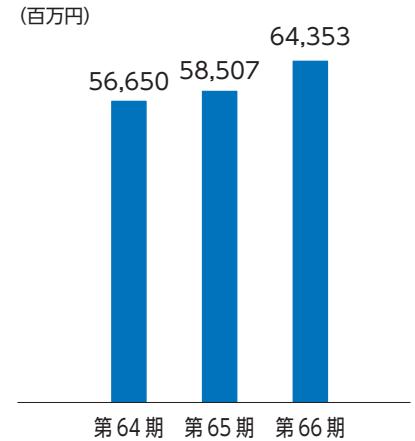
受賞 写真関連

SP 24-70mm F/2.8 VC USD (Model A007) がデジタルカメラグランプリ2013総合金賞(交換レンズ)を受賞

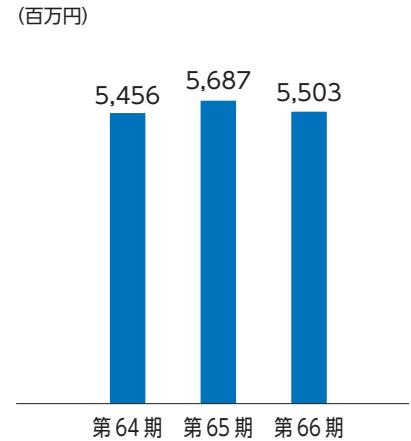


DGP
2013
DIGITAL PHOTOGRAPHY AWARDS

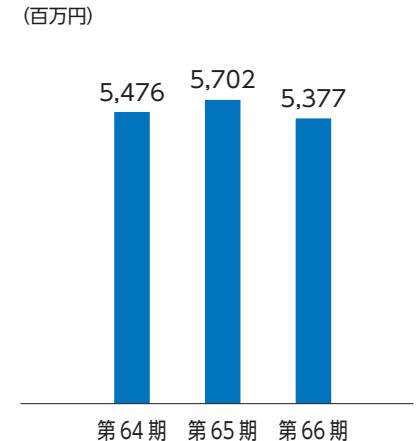
●売上高 ↑ 前期比 10.0% UP



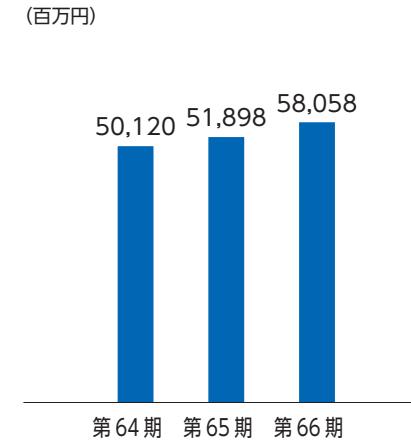
●営業利益 ↓ 前期比 3.2% DOWN



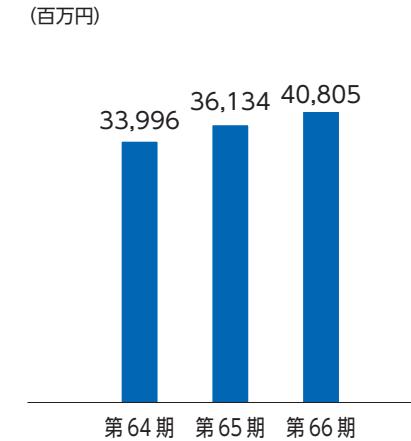
●経常利益 ↓ 前期比 5.7% DOWN



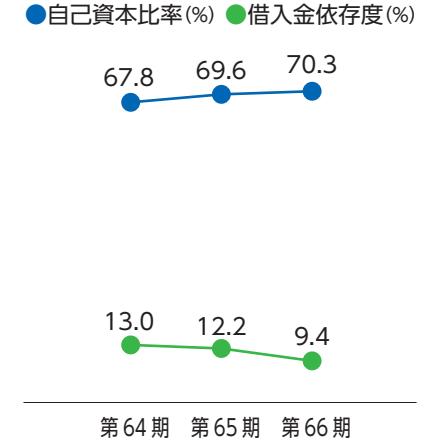
●総資産



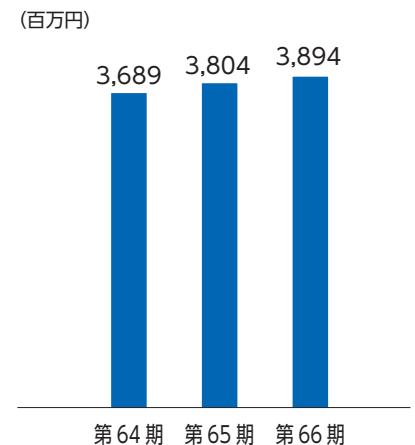
●純資産



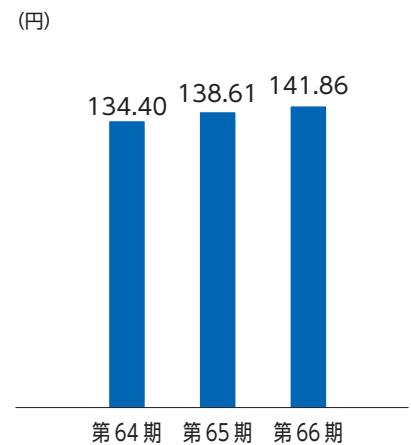
●自己資本比率/借入金依存度



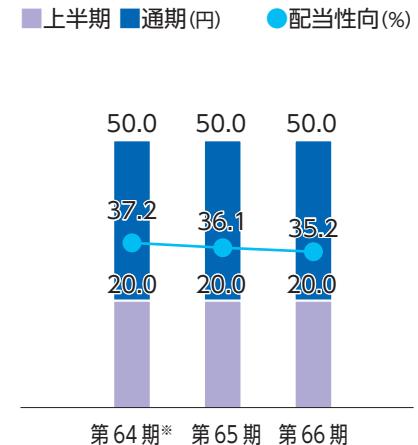
●当期純利益 ↑ 前期比 2.3% UP



●1株当たり当期純利益

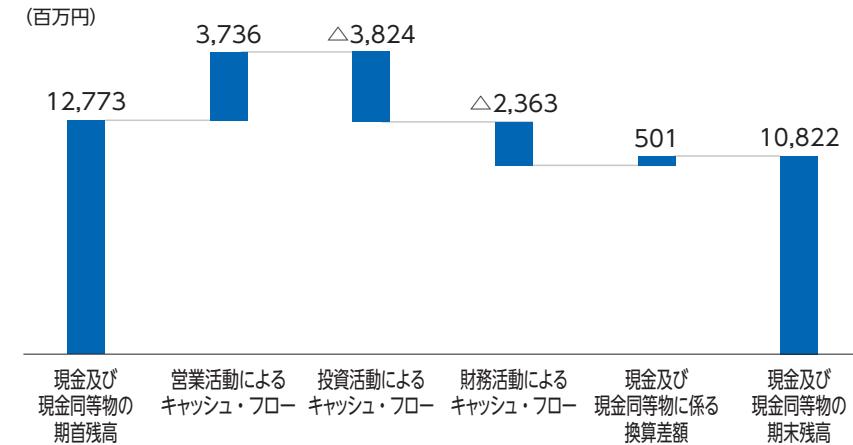


●1株当たり配当金/配当性向

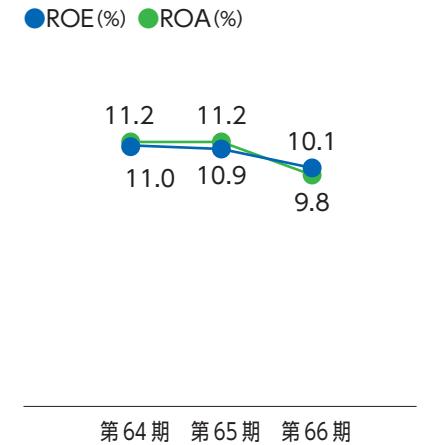


*記念配当5円を含む

●キャッシュ・フロー (第66期)



●ROE/ROA



連結貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

科目	当期 (2012年12月31日現在)	前期 (2011年12月31日現在)
資産の部		
① 流動資産	40,211	35,331
② 固定資産	17,846	16,566
③ 資産合計	58,058	51,898
負債の部		
④ 流動負債	14,262	12,536
⑤ 固定負債	2,990	3,227
⑥ 負債合計	17,252	15,764
純資産の部		
株主資本	41,584	39,063
その他の包括利益累計額	△778	△2,928
⑦ 純資産合計	40,805	36,134
負債純資産合計	58,058	51,898

Point

① 流動資産

現金及び預金が19億50百万円減少した一方、受取手形及び売掛金が29億73百万円、製品が27億19百万円増加したこと等により、流動資産は48億79百万円増加し、402億11百万円となりました。

② 固定資産

有形固定資産が10億46百万円増加したこと等により、固定資産は12億80百万円増加し、178億46百万円となりました。

③ 総資産

前期末に比べ61億60百万円増加し、580億58百万円となりました。

連結損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	当期 (2012年1月1日から 2012年12月31日まで)	前期 (2011年1月1日から 2011年12月31日まで)
売上高	64,353	58,507
売上原価	43,807	38,882
売上総利益	20,545	19,625
販売費及び一般管理費	15,042	13,937
営業利益	5,503	5,687
営業外収益	201	238
営業外費用	326	224
経常利益	5,377	5,702
特別利益	—	100
特別損失	54	374
税金等調整前当期純利益	5,322	5,427
法人税等	1,428	1,622
少数株主損益調整前当期純利益	3,894	3,804
当期純利益	3,894	3,804

④ 流動負債

短期借入金が5億65百万円減少した一方、買掛金が16億79百万円増加したこと等により、流動負債は17億25百万円増加し、142億62百万円となりました。

⑤ 固定負債

長期借入金が2億89百万円減少したこと等により、固定負債は2億36百万円減少し、29億90百万円となりました。

⑥ 負債合計

前期末に比べ14億88百万円増加し、172億52百万円となりました。

⑦ 純資産

利益剰余金が25億21百万円増加し、為替換算調整勘定の残高が△8億73百万円になったこと等により408億5百万円となりました。

連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	当期 (2012年1月1日から 2012年12月31日まで)	前期 (2011年1月1日から 2011年12月31日まで)
⑧ 営業活動によるキャッシュ・フロー	3,736	8,031
⑨ 投資活動によるキャッシュ・フロー	△3,824	△4,679
⑩ 財務活動によるキャッシュ・フロー	△2,363	△1,486
現金及び現金同等物に係る換算差額	501	△88
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△1,950	1,776
現金及び現金同等物の期首残高	12,773	10,996
現金及び現金同等物の期末残高	10,822	12,773

Point

⑧ 営業活動によるキャッシュ・フロー

税金等調整前当期純利益が53億22百万円、減価償却費が31億82百万円となった一方、売上債権の増加額が19億8百万円、たな卸資産の増加額が24億88百万円、法人税等の支払額が21億48百万円となったこと等により、営業活動によるキャッシュ・フローは37億36百万円の収入(前連結会計年度は80億31百万円の収入)となりました。

⑨ 投資活動によるキャッシュ・フロー

有形固定資産の取得による支出が33億84百万円となったこと等により、投資活動によるキャッシュ・フローは38億24百万円の支出(前連結会計年度は46億79百万円の支出)となりました。

⑩ 財務活動によるキャッシュ・フロー

長期借入れによる収入が8億円となった一方、長期借入金の返済による支出が10億48百万円、配当金の支払額が13億72百万円あったこと等により、財務活動によるキャッシュ・フローは23億63百万円の支出(前連結会計年度は14億86百万円の支出)となりました。

連結株主資本等変動計算書(要旨)

(2012年1月1日から2012年12月31日まで)

(単位:百万円)

項目	株主資本					その他の包括利益累計額			純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	為替換算 調整勘定	その他の包括利益 累計額合計	
2012年1月1日残高	6,923	7,432	24,788	△81	39,063	△25	△2,903	△2,928	36,134
当期変動額									
剰余金の配当			△1,372		△1,372				△1,372
当期純利益			3,894		3,894				3,894
自己株式の取得				△0	△0				△0
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)						120	2,029	2,150	2,150
当期変動額合計	—	—	2,521	△0	2,521	120	2,029	2,150	4,671
2012年12月31日残高	6,923	7,432	27,310	△81	41,584	94	△873	△778	40,805

■ フォトコンテスト開催報告 ■

鉄道風景コンテスト



小・中・高校生の部 大賞受賞作品
(さいたま市教育委員会教育長賞)
遠藤 嘉 様「太陽が沈む前に」

鉄道のまち大宮(さいたま市)に本社を置く企業として、さいたま市、さいたま市教育委員会、さいたま商工会議所のご後援をいただき、地域の活性化と鉄道文化の振興に貢献することを目的として「タムロン鉄道風景コンテスト」を開催しています。

第5回目となる今回、全国各地から過去4回を大幅に上回る1,701名の皆様から総作品数6,211点もの応募が集まりました。今後もタムロンは、地域社会への貢献活動の一環として、同コンテストを継続して行う予定です。



一般の部 大賞受賞作品(さいたま市長賞)
中野 俊之 様「確認車が往く」

マクロレンズフォトコンテスト

タムロンでは、「第9回 タムロン マクロレンズフォトコンテスト」を開催いたしました。このコンテストは、マクロレンズのPRおよび普及を目的に2004年から毎年開催しているものです。特徴としては、当社のマクロレンズはもちろんのこと、マクロレンズであればメーカーを問わず、旧モデルも含めて広く作品を募集していることにあります。分野はネイチャー部門とノンジャンル部門を設定しています。今回の第9回では、応募人数1,963名、応募総作品数5,429点と多数のご応募をいただき、マクロレンズで作品づくりを楽しむ方々がよりいっそう拡大してきています。



グランプリ受賞作品
樫野 秀基 様「淡いMIWAKU」

■ 会社情報

会社概要 2012年12月31日現在

商号 株式会社タムロン
創業 1950年11月1日
設立 1952年10月27日
本社 埼玉県さいたま市見沼区蓮沼1385番地
資本金 69億23百万円
従業員数 2,295名(連結)

役員 2013年3月28日現在

代表取締役社長 小野 守男
取締役副社長 河野 昭二
取締役副社長 太田 均
取締役副社長 白井 義博
専務取締役 長島 久明
専務取締役 川合 喬
専務取締役 新井 宏明
常務取締役 関 廣司
常務取締役 志村 忠寛
常務取締役 鯨坂 司郎
常務取締役 大瀬 英世
取締役 濱田 憲一
取締役 清水 秀雄*
取締役 横瀬 三亀夫*
常勤監査役 益子 幸雄*
常勤監査役 安田 信一
監査役 利根 忠博*
監査役 西本 恭彦*

注1. *印の取締役は社外取締役、監査役は社外監査役であります。
注2. 当社は、取締役 清水 秀雄、監査役 益子 幸雄を東京証券取引所の定める独立役員として、同取引所に対し届け出ています。



タムロンの品質・環境に対する取り組み

品質 ISO9001:2000に基づき、品質保証はもとより、顧客満足度の向上を図る目的で品質管理活動を展開しています。
環境 企業の環境責任の重要性を認識し、環境にやさしい製品づくりなど、ISO14001に基づいて環境負荷の低減に取り組んでいます。

株式の状況 2012年12月31日現在

発行可能株式総数 80,000,000株
発行済株式の総数 27,500,000株
単元株式数 100株
株主数 5,648名 ※単元未満除く

■ 大株主

株主名	所有株式数(千株)	持株比率(%)
株式会社ニューウェル	4,898	17.81
ソニー株式会社	3,129	11.38
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,752	6.37
株式会社宏友興産	1,529	5.56
株式会社埼玉りそな銀行	1,122	4.08
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	856	3.11
ゴールドマン・サックス・アンド・カンパニーレギュラーアカウント(常任代理人 ゴールドマン・サックス証券株式会社)	819	2.98
日本生命保険相互会社	480	1.74
タムロン協力会社持株会	449	1.63
ステートストリートバンクアンドトラストカンパニー(常任代理人 株式会社みずほコーポレート銀行)	438	1.59

注. ソニー株式会社の所有株式数3,129千株は、みずほ信託銀行株式会社へ委託した信託財産であります。信託約款上、議決権の行使並びに処分権については、ソニー株式会社が指図権を留保しております。

■ 株式所有者別分布

※単元未満除く



タムロン高倍率ズームレンズ公式Facebookページ開設のお知らせ

Facebook(フェイスブック)*に、タムロン高倍率ズームレンズ公式ページを開設いたしました。タムロンレンズの製品情報や活用方法などを発信してまいりますので、ぜひご覧ください。

*Facebook(フェイスブック)は全世界の利用者が9億人にのぼる世界最大のSNSで、日本国内では899万人が利用しています。(2012年6月現在 J-CASTニュースより)



タムロン高倍率ズームレンズ公式Facebookページ

ページ名
TAMRON高倍率ズームレンズ
URL
<http://www.facebook.com/tamron.highpowerzoom>

株主メモ

事業年度 毎年1月1日から12月31日まで
定時株主総会 毎年3月
基準日 定時株主総会 毎年12月31日
期末配当 毎年12月31日
中間配当 毎年6月30日

単元株式数 100株
株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社

郵便物送付先 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
(電話照会先) 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
電話 0120-782-031 (フリーダイヤル)

※ 取次事務は、三井住友信託銀行株式会社の本店及び全国各支店で行っております。

公告方法 電子公告 ※ ただし、電子公告による公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。
当社ホームページ <http://www.tamron.co.jp>

お知らせ

- **住所変更、単元未満株式の買取等のお申出先について**
株主様の口座のある証券会社にお申出ください。
なお、証券会社等に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。
- **未払配当金の支払について**
株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。
- **復興特別所得税について**
2011年12月2日に『東日本大震災からの復興のための施策を実施するために必要な財源の確保に関する特別措置法』(平成23年法律第117号)が公布され、2013年1月1日から2037年12月31日までの間(25年間)に生じる所得には、その源泉徴収所得税額の2.1%が『復興特別所得税』として課税されることとなりました。株式等の配当金等も『復興特別所得税』の対象となり、所得税率に復興特別所得税率が追加されて源泉徴収されます。

株式会社タムロン

〒337-8556 埼玉県さいたま市見沼区蓮沼1385番地
TEL 048-684-9111(代) FAX 048-683-8289
<http://www.tamron.co.jp>

■ IR情報関連に関するお問い合わせ
経営企画室

TEL 048-684-9114(午前9:00~午後5:20) FAX 048-683-8282
e-mail: kabushiki@tamron.co.jp

ホームページのご紹介

当社ホームページでは、事業内容をはじめ、商品のご紹介からIR情報に至るまでの様々な情報を掲載しています。ぜひご活用ください。

主な掲載コンテンツ

- 企業情報 ● 採用情報 ● 製品情報
- IR情報 ● お問い合わせ
- CSRへの取り組み

タムロン トップページ

URL <http://www.tamron.co.jp>



タムロン フォトサイト

URL http://www.tamron.co.jp/index_p.html



UD FONT
by MORISAWA

見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。



本冊子は環境保全のため、植物油インキで印刷しています。